

令和4年度第2回 庄内町振興審議会（文教厚生分科会）【議事録】

日 時: 令和5年3月13日(月) 午後6時30分

場 所: 役場B棟2階 会議室4

出席者: 梅木均委員、佐藤道子委員、渡部奈穂子委員
(事務局) 岡本

欠席者: 海藤喜久男委員、吉田正子委員

1 開 会 18:30 梅木均分科会長 開会・進行

開会いたします。

まずは資料についてそれぞれ確認の時間を取りますので内容を確認してください。

2 協 議 18:40

(1) 意見書確認と集約

① 総合計画後期基本計画

- 【委員】 昨年の答申の(1) 子育ての小児科・産婦人科の誘致については外せないと考える。継続していく必要がある。
- 【委員】 子育ての項目には出生率という文言も入れてよいと思う。子どもが生まれるからこそ「小児科・産婦人科」の必要性が出てくる。少子化対策も含めての項目にしてもよいのでは。
- 【委員】 子育て日本一という以前に、少子化が問題。出生者数が年間80人を切るなど、そもそも子どもが生まれないことの「なぜ」を考えていく必要がある。
- 【委員】 子どもを産む世帯や若者が働きやすい環境・住みやすい環境が必要。少子化対策や子育て対策と同時に若者のための住みやすい環境が必要。町民アンケートを見ると、住みにくい理由に雪の問題も大きかった。
- 【委員】 いろいろ体制を整えておけば若者が来る。その対策がしっかりしていないと人が来ない。人が住みやすい環境づくりをしないと人は集まってこない。少子化には背景にいろいろな問題がある。
- 【委員】 子どもを産むのは女性。何人も生んでも暮らしをしっかりとしていける環境や町の支援がないと住みやすいとは言えない。支援は必須である。
- 【委員】 働かないと生活できない。子育て世帯が働く場所も必要。
- 【委員】 出産時に一時的な支援金をもらったところで、ずっと育てられるわけではない。
- 【委員】 町長が掲げている企業誘致についても、大企業が来るとは考えづらい。宅地造成等タイアップして総合的に考えないと人は来ない。分科会の枠を超えるが、総合的に考えないと少子化対策にもつながっていかない。
- 【委員】 分科会の枠を超えるので、今言った意見は全体意見として出して、この分科会では子育てや少子化対策に特化した意見を出した方がよい。すぐに叶うものではないので、いつまでも言い続けなければならない。余目病院も新しくなるので、小児科について引き続き言い続ける必要がある。
- 【委員】 (1) は文言を加えるとともに、全体意見として「宅地造成」「企業誘致」「雪対策」などをタイアップした全体的な少子化対策が必要であることを全体会に提案することにする。
- 【委員】 近隣に務められる企業があるので、ベッドタウンを意識したまちづくりを推進しては。
- 【委員】 そうなると、通勤時の除雪等、雪と道路問題が出てくる。ベッドタウン化するのであれば通勤のための除雪対策(家から大きな道路まで等)が必要。そこがきちんとしていないと「住みやすい」とは言えない。朝の早い時間で除雪してもらおうなど。
- 【委員】 前町長時代は庄内町はベッドタウンという構想があったように思う。若い人向けの企業が鶴岡や酒田には多いので、ベッドタウンとして充実していくことをどのように言い続けるか。

- 【委員】「子どもを育てるなら庄内町」と言ってもらうには、雪対策は大きな問題だと捉える。
- 【委員】除雪についてはこれからも雪は降るので更に言い続ける必要がある。吹き溜まりが多く、大雪などの異常気象も多い。雪対策は住む人にとってずっと続く課題となる。
- 【委員】高齢者宅の雪対策について意見があるので、その項目を活かしつつも、子育て世帯も高齢者世帯も住みやすい雪対策について福祉分野から声をあげてもよいと思う。
- 【委員】敷地内の除雪については高齢者の独り暮らしのお宅など、助けてあげたい気持ちもあるが、頼まれなければできないし、頼みづらいのかもしれない。住居侵入になってしまう恐れもあり、双方遠慮してしまうこともある。町に申込しているのかどうかわかるようにしてもらえれば、助けやすいのだが。
- 【委員】(2) 教育の質の向上について。学校は早く統合すべきと考える。小学校が分散しているとひとりひとりの顔は見えるが、人員不足や様々な問題が発生する。「庄内町」として、教育の特色を出したり学力を向上させていくためには統合してひとつの方針として考えていくべき。現代は子どもに対する要求が高いのではと思う。学力向上に力を入れてほしいという声も聞く。
- 【委員】先生の目が届くからいいという声もあるが、大人数で切磋琢磨するのとどちらがよいのか。
- 【委員】昔はクラス数も多く、互いに揉まれてきた時代。今は世の中が変わってきている。1人の先生では無理だと思う。小学校の先生はすべて教えなければならないが、パソコンや英語も入ってきているので先生にも限界があると思う。
- 【委員】現在、2クラスあるのは三小の1学年しかない。メンバーが変わらずに8年も一緒に過ごすことになる。クラスの適正規模については答申に入れたい。
- 【委員】幼稚園も含めて考えなければならない。今は認定こども園。幼稚園とこども園の申込先は分かれている。酒田・鶴岡の幼稚園はすべて私立。幼稚園は認定こども園にしていく方がよい。
- 【委員】保育園から幼稚園というスタイルではなく、はじめから認定こども園に（民営化）した方がいろいろな教育ができると思われる。保育園でなければならない理由はない。保育園から幼稚園へというスタイルを変えないと。
- 【委員】保育園と幼稚園が分かれていると乳児と幼児と一緒に預けることができず、保護者の負担になるなどの弊害がある。子育ての観点ではどちらの園も同じことをしているので、分ける必要はないと考える。
- 【委員】以前は保育園に行った子どもは小学校入学までずっと保育園だった。今は保育園の後に幼稚園に入園することになっている。幼稚園に行っている子は早く帰宅する。学童を利用する子どもは卒園後も学童を利用する子が多い。
- 【委員】学童も小学校の近くにそれぞれある。学校が近い方が利便性はよい。小学校を統合するとなると学童も統合することになるか。
- 【委員】一小は小学校と学童との間に距離がある。小学校を統合して近くに学童を整備してくれば問題解決につながる。
- 【委員】将来的に考えれば、そのように整備した方が財政面でもよいと思われる。民営化まではわからないが、これから先は進めてもよいのではと思う。
- 【委員】幼稚園も含めて適正規模・適正配置を考えていかなければならない。
- 【委員】小学校や幼稚園の数は多いと思う。
- 【委員】立川の子どもたちが余目に来るとなると、距離があって不便になる可能性がある。
- 【委員】統合するには学区を統合しなければならない。
- 【委員】地域である程度まで考えて総合的に考えないと学区編成はうまくいかない。まちづくりセンターもそれぞれの学区でやっているが、それを取っ払って柔軟な考え方をしていけないといけない。
- 【委員】「みんなの意見」を重要視していたら何も変わらない。
- 【委員】早めに動かないと立ち行かなくなる恐れがある。
- 【委員】卒業式の歌もそれぞれの学校や園で異なる。学校ごとに異なる特色を出すよりも、町として統一された「特色」で一体感を出せた方が、子育てする保護者も安心なのではないか。
- 【委員】各校の人数が少ないと競争力も働きにくい。
- 【委員】まちづくりセンターでも放課後こども教室を実施しているが、足並みがそろわない。学校によってばらつきがある。地域によって格差が出るのは面白くないところがあると思われる。学区ごとの状況が見えないので、後になって「こっちがよかった」ということになる可能性だってある。どの地域に住んでも格差の

ない子育て・教育ができる「来てよかった」「住んでよかった」と思われる町にしていくべき。

- 【委員】(4) 学校教育についての中に「地域ぐるみで子どもたちの心を育むよう努めること」とあるが、コミュニティスクール(CS)というものがある。コーディネーターもいて、地域づくり会議の方も参画して地域ぐるみで教育を行うしくみである。この「コミュニティスクール(CS)」という文言を加えてもよいのではないか。
- 【委員】「コロナ」の文言はもう削除してもよいと思う。
- 【委員】地域ぐるみという言葉を入れる。「地域ぐるみ」の「地域」は学区レベル。
- 【委員】教員アンケートで先生方からも意見が出ているとおり、学校編成について速やかに検討して、実現に向けて行動を始める必要がある。
- 【委員】(3) の認知症予防等については講座等を開かれてもなかなか足が向かない。事前申込があるものは行きづらい。ホームページや広報に載っているとと言われてもなかなか見ない。
- 【委員】youtubeのように動画で講座内容の概要などが出されていれば、自分の都合のいい時間や見たいときにサッと見られる。小さい文字を読むことなく、言葉が音声で聞こえる動画なら高齢者も見やすいと思う。高齢者でもパソコンやスマホを使える方が増えてきた。「ホームページを見てください」という情報発信よりも、簡単に情報が受け取れるような工夫をしてほしい。町民にとって見やすい情報となるように工夫してほしい。動画を活用してよい時期・時代になってきている。
- 【委員】認知症予防にもスマホ活用が役に立つ。SNS利用などいろいろなことをやることによって認知症予防につながる。
- 【委員】誰ともしゃべらないことによって認知症になってしまうのを防ぐために、教室などを開催して社会に出てくる機会としてほしい。高齢者が家にひきこもらない新たな交流の場としての教室などの開催もひとつの手。情報発信の方法も回覧板では限界になってきている。ホームページはなかなか見ないし検索もしづらい。動画なら、単語でヒットしたり、興味あって見たものの関連動画が自動的に表示されるなどのメリットもある。
- 【委員】広報誌はなくさないでほしいが、高齢者が使いやすい町の情報発信を考えてほしい。ホームページも使いやすくわかりやすく工夫してほしい。
- 【委員】(5) 伝統芸能について。人口が減少すれば神社も存続できない。伝統芸能は神事と考える方もいるが、宗教とは切り離して「文化」として保存していくことを考えてもよいのでは。神事だからということにこだわらないで、地域の伝統として、残していく方向で考えられないか。
- 【委員】昔から語り継がれてきた「文化」という考え方を重視して残すことを考えられないか。
- 【委員】各集落で人がいないからできない、続けられないとなってきたが、学校等で地域連携した文化・伝統芸能を教えるという方法もある。
- 【委員】食文化も同じ。笹巻やしそ巻きなどの面倒なものは継承されなくなってきた。語り継がれ、引き継がれてきたものをつないでいくこともまちづくりセンターの大きな役割だと思う。すべては難しいと思うので、残していきたいものを選んででもいいので引き継ぐ取組をしていっては。
- 【委員】地域との結びつきを強めるための「コミュニティスクール」の活用を推進していつてはどうか。学校を統合し、その「余目キャンパス」「立川キャンパス」など、今の学区よりも大きな括りで新しいしくみを展開していくことを考えられないか。
- 【委員】もう「できない」と言っている場合ではない。人口減少は喫緊の課題。
- 【委員】町の施設も活用して特色ある活動も考えられるのでは。
- 【委員】地域で学校づくりをしていかないと子どもたちの生活力教育にも影響していく。
- 【委員】庄内総合高校があることで駅前がにぎわっているとも言える。庄内総合高校のカリキュラムなど、魅力的であることをもっと広く知らせる工夫も必要なのでは。
- 【委員】高校の存続も、町にとってメリットがあると考えられる。他の地域の高校よりも「おもしろい」ということを発信して、人気を高めて入学志願者が増えるように町も一緒になって取り組んでもよいのでは。

② まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 【委員】デマンドタクシーの使い勝手がよいという高齢者がいた。循環バスだけでは行きたいところややりたいこ

とが網羅できないところがある。デマンドタクシーなら、日本海病院に行き、ついでに買い物もできていいという意見だった。デマンドタクシーの利便性の高さや誰でも利用できる点はもっと周知してもよい。

【委員】周知を強化して利用者拡大を図るべき。一度使ってもらうのが一番の周知になる。

【委員】町営バスもポイントカード制度を活用する等も考えられるが、まずは一度乗ってみてもらう必要がある。乗りたくなるしかけを。

【委員】乗り方を知らない方も多いので、利用方法としくみのわかりやすい周知と利用促進を。

【委員】町内会や地域づくりでもいいので、イベント等含め、一度バスに乗ってみてもらう工夫を。

③過疎地域持続的発展計画

【委員】昨年度同様、公共施設のWi-Fi環境整備は継続したい。オンライン配信など、イベントの在り方も変わってきている。まちづくりセンターはすべて環境整備されたようだが、他の施設でもオンライン配信対応ができるように整備してほしい。

【事務局】響ホール大ホールは講演やコンサート等もあり、配信制限をかけなければならない等の課題があると思われる。小ホールや研修室等であれば整備できるし、スイッチのON-OFFで配信する・しないを切り替えることもできるかもしれない。

【委員】ON-OFF切替や制限も検討したうえで、可能な限り多くの施設に整備してほしい。体育館も避難所として利用する可能性もあり、整備しておくに越したことはない。

【委員】以上、これまで協議したことをまとめて、答申の素案を作成する。

3 その他

<第3回> 3月22日(水) 18:30～(審議会としての意見をまとめる)

<答申> 3月30日(木)

4 閉会 20:38